

2023年4月号

故郷の人物を知ろう

たかおか 温故知新

東西美術交流に尽した美術商／林 忠正
(1853～1906) 前編

新年度より高岡ゆかりの人物を紹介していきます。

最初はパリを拠点に世界的に活躍した美術商・林忠正です。忠正は今から170年前、高岡一番町の蘭方医・長崎言定の二男として生まれます。1870年、親戚で富山藩の重職であった林太仲の養子となり林忠正と改名。すぐに上京し、仏語塾を経て大学南校（東大の前身）で学びます。1878年の卒業半年前に大学を中退、パリ



林忠正肖像（個人蔵／高岡市立博物館提供）

万博の通訳として渡仏します。博覧会終了後に起立工商パリ支店に入社し、1883年独立して美術店を開業。ドガ、ピサロ、モネら印象派の画家やゴッス、ゴンクール、ビュルティら文化人とも広く交流します。浮世絵や美術工芸品を大量に輸出し印象派の発展に寄与します。1886年5月『パリ・イリュストレ／日本特集号』を流麗な仏語で執筆し、日本の文化、歴史、美術を伝えるなど、ジャポニスム興隆の原動力となりました。また、同年3月には輸出不振に悩む高岡銅器業界に対して、西洋人のニーズに応じ多様な製品を作成し、適正な価格で販売することの必要性のほか、具体的にデザインや色、使用するモチーフなどを高い見地から助言しました。（仁ヶ竹主幹）

問合先 博物館 20-1572

【訂正】3月号本文1行目、「1770年」→「1788年」